



医療健康情報管理者研修会 開催報告

主催：一般社団法人 医療健康情報認証機構（JACHI）

一般社団法人 医療健康情報認証機構（会長 田中 滋 慶応義塾大学 名誉教授）主催の「医療健康情報管理者研修会」が、春の訪れが感じられる3月25日（土）午後1時より、インテリジェンスプラザ（YS 新横浜ビル5階）において開催されました。

医療健康情報の健全な発展のため、JACHI では「Web 情報の適切な管理」と「信頼性の高い健診情報の確保」の普及活動をしています。そのため、医療健康情報の利活用の向上と、それに伴って起こり得る問題と対策、運用方法などに対し客観的な評価ができるプロフェッショナルな人材の育成を活動の大きな柱としています。

この研修会では、健診や人間ドック業務に関わっている方を対象に、「Web 認証」「情報品質認証」で要求される事項、また健診情報を適切に伝達するために必要とされる評価項目、手続きなどを習得していただくことを主たる目的としています。

研修会の受講前と受講後でそれぞれテストを実施し、どの程度理解度が向上したかを評価しています。

研修会終了時に修了証が発行され、その後「医療健康情報管理者」資格が認定されます。

◆◆ 講義内容 ◆◆

1. 情報セキュリティ対策
～情報セキュリティ 10 大脅威～
土屋 正 氏
(独立行政法人情報処理推進機構 (IPA) 技術本部
セキュリティセンター 情報セキュリティ技術ラ
ボラトリー 研究員)
2. コラボとしてのデータヘルスの推進
～明るく・楽しく・元気に をモットーに4つの
健康課題へのアプローチ～
中根 弥枝 氏
(ブラザー健康保険組合 保健推進センター 課長)
3. 健診データの取り扱い
医学系研究倫理指針との関係
吉田 勝美
(JACHI 専務理事、産業医科大学 産業衛生 教授)

午後1時開始となった研修には、全国から40名の受講者が参加されました。事務局による進行説明のあと、講義資料と「設問・解答用紙」が配布されました。講義の前と後に各々回答を記入し、評価する方法をとっています。続いて吉田勝美専務理事より開講のご挨拶とこの研修の全体像の説明があり、講義へと進みました。

講義1. 情報セキュリティ対策
～情報セキュリティ10大脅威～



講師：土屋 正 氏

講師：土屋 正 氏（独立行政法人 情報処理推進機構（IPA）技術本部 セキュリティセンター 情報セキュリティ技術ラボラトリー 研究員）

情報セキュリティ10大脅威は、IPAが2006年から毎年発行している資料です。前年に発生したセキュリティ事故や攻撃の状況等からIPAが脅威候補を選出し、セキュリティ専門家や企業のシステム担当等、約100名による「10大脅威選考会」が投票して決定しています。たとえ同じ脅威でも、脅威の影響を受ける側の立場（個人、組織）によってその影響度は違うため、「個人」と「組織」の10大脅威を選出しています。

2017年版の情報セキュリティ10大脅威では、ランサムウェア（後述参照）による被害が「個人」と「組織」のどちらも2位となっています。インターネットバンキングやクレジットカード情報の不正利用は、「個人」では1位ですが「組織」では10位で、これが同じ脅威でも立場によって影響度が違うということです。また、IoT機器についての脅威が、「個人」と「組織」で表現は異なりますが、2017年版で新しくあがってきています。

「組織」の10大脅威を前年と比較してみると、



2016年版で1、2、3位だった、標的型攻撃による情報流出、内部不正による情報漏えいとそれに伴う業務停止、ウェブサービスからの個人情報の窃取が、2017年版でも1、5、3位と上位に入っています。また、ランサムウェアの脅威が、2016年版では7位だったのが、2017年版では2位になっています。

今回は、「組織」の脅威の中から、標的型攻撃による情報流出、ランサムウェアによる被害、内部不正による情報漏えいとそれに伴う業務停止、ウェブサービスへの不正ログインの4つの脅威について解説します。

◆**標的型攻撃による情報流出**

政府機関、業務関連会社等を装ったメールを送り付けてきます。ほとんどの場合、添付ファイルがついていて、添付ファイルを開くか、本文中のURLをクリックすることでウイルスに感染します。1台でも感染してしまうと、そのPCを踏み台にして組織内部に侵入されてしまいます。ウイルスを入れないようにする対策や、アクセス区画の整理やログの監視といったウイルスを封じ込める対策を組み合わせることで多層防御をすることが重要です。

◆**ランサムウェアによる被害**

ランサムウェアとは、身代金という意味の“ランサム”と、ソフトウェアの“ウェア”をつなげた造語です。ランサムウェアに感染すると、PC内のファイルが暗号化され、ファイルが開けない、端末がロックされ操作ができないなど、利用制限をかけられ、制限解除のためのメッセージ（金銭の要求など）が表示されます。通常のウイルス対策に加え、感染したときに備えて、重要なファイルは定期的にバックアップをとっておくことが良いでしょう。

◆内部不正による情報漏えいとそれに伴う業務停止

内部不正は、動機、機会、正当化の3つが揃うと行われると言われています。内部不正を未然に防ぐような対策が重要となります。内部不正経験者が効果的だと考えている対策と、経営者やシステム管理者が重要視している対策との間で、ズレが生じているというアンケート結果もあります。

◆ウェブサービスへの不正ログイン

不正ログインの手法として、総当たり攻撃、逆総当たり攻撃(パスワードを固定しIDを変える)、パスワードリスト攻撃(あらかじめ入手したIDとパスワードの組合せリストを試行する)、辞書攻撃(辞書単語などを組み合わせる)があります。推測されにくく長いパスワードを設定する、パスワードを使い回さない、二要素認証等の強い認証方式の利用、ログイン履歴の確認を心がけてください。

◆情報セキュリティ対策の基本

IT環境、攻撃手法、攻撃目的の変遷があり、「10大脅威」の順位は毎年変動しますが、基本的な対策の重要性は長年変わりません。ソフトウェアの更新、セキュリティソフトの導入、パスワード管理・認証の強化、設定の見直し、脅威・手口を知る等の基本的な対策をコツコツと積み重ねることが重要です。

ご紹介した情報セキュリティ10大脅威は、IPAサイトから確認できます。また、講義中に紹介したIPAの資料や使用した映像は、インターネット上でPDFファイルやYouTubeでご覧いただけますので、よろしければご活用ください。(http://www.ipa.go.jp/)

講義2. コラボとしてのデータヘルスの推進 ～明るく・楽しく・元気にをモットーに4つの健康課題 へのアプローチ～

講師：中根 弥枝 氏 (ブラザー健康保険組合 保健推進センター 課長)

従業員の健康向上には、健康保険組合が行うデータヘルス計画と企業が行う健康経営がコラボすること(コラボヘルス)が必須です。今回は、コラボヘルスについて、ブラザーグループでの取り組みについてご紹介いたします。

ブラザーグループの大きな特徴は、健康保険組合が病院(ブラザー記念病院)と老人保健施設を運営していることです。毎月、健保・会社・病院のメンバーが



講師：中根 弥枝 氏

集まって健康支援ミーティングを行い、健康施策のPDCAを回しています。

データヘルス計画の立案では、レセプトを用いた医療費分析から健康課題を抽出し、健康課題への重点戦略として、がん対策、メタボ対策、動脈硬化のリスク減、健康的な生活習慣の定着の4つをあげました。各対策についてご紹介します。

◆がん対策

クーポンの配布や検査に不安がある受診者を対象とした健診相談会の開催、申込書の工夫といった対策で、総合健診(ブラザー健保が行っているがん検診を含めた健診)の受診率が向上しました。また、受けっぱなし健診を無くすため、フォローの充実も図っています。

◆メタボ対策

若年メタボセミナーや奥様向け健康セミナーを開催しています。セミナーにはグループ内の資源を活用することで、対象者に合わせた柔軟な対応がとれるように工夫しています。

◆動脈硬化のリスク減

動脈硬化対策として、主に受動喫煙対策、禁煙サポートを行っています。禁煙サポートでは禁煙外来コースや自力禁煙コース等いくつかのコースを用意し、コース別に特典を設けています。2020年に喫煙率10%を目標に取り組んでいます。

◆健康的な生活習慣の定着

10～11月をブラザー健康生活月間とし、休憩時間にちょこっとエクサコース、チームDEウォークコース、工場での食堂イベント、健康クイズなどの任意参加のイベントや企画を行っています。また、母体企業のグローバル安全防災大会にて、健保理事長より健康MVPを表彰する取り組みも行っています。

講義3. 健診データの取り扱い
～医学系研究倫理指針との関係～

講師：吉田 勝美（JACHI 専務理事、産業医科大学
産業衛生教授）

先般、改正個人情報保護法が施行され、既往歴や家族歴の情報が要配慮個人情報に当たる等、健診データの取扱いのルールが厳しくなりました。ただ、学術研究機関での研究は適応除外、学術研究機関との共同研究であれば規制権限を行使しない、ということになっています。

◆健診データの使用

健診データを使用する際には、目的やどの立場（保健事業、研究）で使うのが重要になります。その根拠として、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（平成 26 年 12 月 22 日）」（倫理指針）があります。倫理指針の内容を分かりやすく表現すると、以下のようになります。

- ①研究の必要性を説明できるか
- ②科学的に妥当な方法か
- ③研究対象者のリスクや負担を上回る必要性があるか
- ④倫理審査を受けたか
- ⑤インフォームドコンセントを得たか
- ⑥社会的弱者に配慮したか
- ⑦プライバシーに配慮したか
- ⑧結果に責任が持てるか

◆人を対象とする医学系研究に関する倫理指針

通常の医療活動、症例検討会や症例報告、医療の質の確保のために施設内のデータを集積・検討すること等は医学系研究に該当しないということになっています。

倫理指針では、侵襲と介入がキーワードになっています。インフォームドコンセントについては、侵襲がある場合は文書同意、侵襲がない場合で介入があるときや、生体試料を用いるときは口頭同意+記録作成、自施設の診療情報を利用した研究や、アンケート・イ



講師：吉田 勝美

ンタビューによるデータ収集の場合は情報公開+オプトアウト（拒否権の保証）が必要になります。

倫理指針を読み解くと、学会発表には、通常の健診項目であれば迅速審査+オプトアウトが必要で、介入や追加項目があれば倫理指針に則って手続きする必要があると考えられます。ただ、健診データの取扱いについてはグレーな部分もあり、今後議論が必要になってくるかと思えます。

以上

次回開催のご案内

JACHI「医療健康情報管理者研修会」

日時 2017年7月29日（土） 受付 12:30～
13:00～16:30

会場 インテリジェンスプラザ（YS新横浜ビル 5F）
横浜市港北区新横浜 2-15-10
JR新横浜駅より徒歩6分、市営地下鉄新横浜駅徒歩3分

テーマ

1. 情報セキュリティ対策～標的型サイバー攻撃対策～
講師 渡辺 貴仁 氏
(独立行政法人 情報処理推進機構 (IPA)
技術本部 セキュリティセンター
情報セキュリティ技術ラボラトリー 主任研究員)
2. 遠隔医療技術の健診・保健指導への応用
講師 東福寺 幾夫 氏
(高崎健康福祉大学 健康福祉学部医療情報学科 教授)
3. 健診データの取扱い (JACHI 原則を踏まえて)
講師 吉田 勝美
(JACHI 専務理事、産業医科大学 産業衛生教授)



◆お問い合わせ先◆

一般社団法人 医療健康情報認証機構 (JACHI)
〒222-0033 横浜市港北区新横浜 2-15-10 YS 新横浜ビル 5F インテリジェンスプラザ内
TEL: 050-3776-9203 FAX: 045-534-7556
E-mail: info@jachi-md.org URL: http://www.jachi-md.org

